



福島医大ふくしま子ども女性医療支援センター長

水沼 英樹氏

両側卵巣摘出や閉経後などの女性ホルモン（エストロゲン）欠乏は更年期障害、骨粗しょう症、脂質異常症などの要因となりませんが、これらエストロゲン欠落に起因する疾患の予防や治療法のひとつにホルモン補充療法（HRT）と呼ばれる療法があります。HRTは「永遠の女性」をもたらす特効薬として、二十世紀後半には、世界中で広く認知、使用されるようになり、アメリカ心臓協会では冠動脈疾患の予防のために、閉経後女性にはHRTを行なうべしという強い勧告すら出され

ていたほどです。ところが、二〇〇一年に報告された大規模臨床研究の中間報告（WHI試験）を境にHRTに対する認識は大きな転機を迎えました。HRTを受けた女性が、受けていない女性（対照群）に比べ乳がんのリスクが予想水域を超えたために試験を中止するという報告がなされ、これがマスメディアに大きく取り上げられたことで世界中に大混乱をもたらしたのです。ところが、その後この研究には様々な問題があったことが指摘されました。少し専門的になりましたが、この臨床試験に参加した症例は高度肥満HIT試験結果は従来のH

このため、現在ではWHIの試験結果を他の一般集団に当てはめるのは妥当性がないと言われるようになりましたが、WHIT試験結果は従来のH

RTに対する考え方に警鐘を鳴らしたことは事実で、以来、HRTを巡り多くの検証が行なわれてきました。その結果、現在では、乳がんリスクは五年未満のHRT使用では高まらない、心筋梗塞や脳卒中のリスクは高齢女性では高まるが、閉経後十年以内の女性ではむしろ低下させる、エストロゲン製剤の種類によりリスクは異なり、適切な薬剤選択を行えばHRTはデメリットよりメリットの方が高いなどが明らかになってきました。これらの検討結果を受け、わが国ではより安全なHRTの使用を行なうためのガイドラインも制定されました。高齢社会を迎えたわが国では、女性の健康の維持、向上を目指したHRTの普及がますます必要になっていくと考えています。

# 安全指針 基に投与を

次回10月17日掲載

けた女性では、受けていない女性（対照群）に比べ乳がんのリスクが予想水域を超えたために試験を中止するという報告がなされ、これがマスメディアに大きく取り上げられたことで世界中に大混乱をもたらしたのです。ところが、その後この研究には様々な問題があったことが指摘されました。少し専門的になりましたが、この臨床試験に参加した症例は高度肥満HIT試験結果は従来のH

## 更年期女性のさまざまな状態に対するHRTの有用性

(ホルモン補充療法ガイドライン2012年度版)

状態	有用性
血管運動神経症状	A+
更年期の抑うつ症状	A
それ以外の更年期症状	B
アルツハイマー病の予防	B
尿失禁の治療	C
萎縮性膣炎・性交痛の治療	A+
骨粗しょう症の予防	A+
骨粗しょう症の治療	A+
脂質異常症の治療	A
動脈硬化症の予防	B
皮膚萎縮の予防	A
口腔の不快症状	B

- A+ 有用性がきわめて高い
- A 有用性が高い
- B 有用性がある
- C 有用性の根拠に乏しい
- D 有用ではない

## ホルモン補充療法

者、喫煙者、心筋梗塞の既往者を多く含む、さらには平均年齢が高く本来ならばHRTの適応とならない症例を対象としていたこと、更にはエストロゲン製剤には様々な種類があるのに、この研究では一種製の製剤での検討しか行なっていないことが問題視されたの